

＜授業改善の視点＞

発表のためのアイデアをまとめる場面において、マッピングを共有し、自分のものと見比べることで、考えが再整理され、より聞き手に分かりやすい展開や内容を考えながら、発表することができるであろう。

## 英語科学習指導案

単元名「ALT のために魅力ある日本の都市を紹介しよう」(教材名「Unit 6 Lively Towns in Japan」)

令和3年11月26日(金) 第5校時 西多目的教室

3年2組 指導者 山崎 誠弘、Sucgang Jose

### I 単元の構想

#### 1 身につけさせたい資質・能力および児童生徒の実態

	身につけさせたい資質・能力	生徒の実態
知識及び技能	<p>＜知識＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>後置修飾、仮定法の特徴やきまりについて理解できる。</li> </ul> <p>＜技能＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本の都市やその特色について聞いたり読んだりしたことを活用しながら、考えたこと、感じたことなどを、後置修飾、仮定法などを用いて話すことができる。</li> </ul>	<p>単元テストでの取組では、およそ8割の生徒が知識・技能の問題に正解しており、文法への理解が高いことが考えられる。特に過去分詞形のテストでは不規則変化動詞の問題も、およそ7割の生徒が正解しており、また、既習の進行形の復習もしている生徒も見られるため、本単元の分詞についても理解しやすいと考えられる。しかし、即興的に受け身や進行形の質問に答える場面では、3割の生徒しか正確には答えられていない。</p>
思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>ALT に日本の魅力について知ってもらうために、簡単な語句や表現を用いて、まとまりのある内容で伝えることができる。</li> <li>既習の表現を用いて、教科書本文を自分の言葉で説明することができる。</li> </ul>	<p>1学期にALT の食べたことない日本食を紹介しようという活動に取り組んだ。その際、目的や場面、状況に応じて、新出表現を効果的に取り入れようと考えて言語活動に取り組んでいた。また、教科書本文のリテリング活動では、デジタル教科書の写真を活用し、既習の表現を用いながら、ほぼ全員が本文をまとめることができている。しかし、半数の生徒は事前に用意した文を発表するにとどまり、自ら考えた文を説明するところまで到達していない。</p>
学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>ALT に日本の魅力について知ってもらうために、簡単な語句や表現を用いて、まとまりのある内容で伝えようとしている。</li> <li>新出表現を活用することで、自分の考えをより多く表現できると感じながら活動に参加しようとしている。</li> </ul>	<p>1学期にALT の食べたことない日本食を紹介しようという活動に取り組んだ際、積極的授業外でもALT に質問する場面も見られた。また、振り返りシートの記事では、多くの生徒から同じような活動をやってみたいなどといった感想が見られた。</p>

#### 2 目標

ALT に日本の魅力について知ってもらうために、簡単な語句や表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを整理しながら、まとまりのあるプレゼンテーションで伝えることができる。

関連する学習指導要領における領域別目標

話すこと (発表)	イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。
--------------	---

#### 3 評価規準

	【知識・技能】 (ア)	【思考・判断・表現】 (イ)	【主体的に学習に取り組む態度】 (ウ)
話すこと・発表	<ul style="list-style-type: none"> <li>後置修飾、仮定法の特徴やきまりについて理解している。</li> <li>日本の都市の特色などについて聞いたり読んだりしたことを活用しながら、考えたことなどを、後置修飾、仮定法等を用いて話す技能を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ALT に日本の魅力について知ってもらうために、簡単な語句や表現を用いて、まとまりのあるプレゼンテーションで伝えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ALT に日本の魅力について知ってもらうために、簡単な語句や表現を用いて、まとまりのあるプレゼンテーションで伝えようとしている。</li> </ul>

※本単元における他領域については目標に向けての指導を行うが、本単元内で記録に残す評価は行わない。

4 単元計画および指導方針 (評定に用いる評価は囲い文字) ★1人1台端末の活用

時	選	学 習 活 動	評 価	指 導 方 針	
1	つかむ	<ul style="list-style-type: none"> <li>ALTからの詳しい自己紹介を聞いて、ALTが日本を旅行したいことを知り、おすすめの都市を教えてほしいというメッセージを聞く。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>ALTの詳しい自己紹介を聞くことで、英語を使用する目的や場面、状況を理解して活動に取り組めるようにする。</li> <li>既習の表現を用いて群馬県の都市について紹介活動をさせることで、言語活動の見通しをもたせ、取り組めるようにする。(試しの活動)</li> </ul>	
<p><b>【単元の課題】</b>:ALTに日本の魅力について知ってもらうために、日本のおすすめ都市を紹介しよう。</p>					
2	追究する	<ul style="list-style-type: none"> <li>後置修飾について実際に会話や活動を通して理解する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>既習表現である進行形、受け身表現を取り入れ、単元のゴールにつながる活動を設定することで、単元末を意識しながら学習できるようにする。</li> <li>後置修飾が使われる自然な場面を設定し、新出表現を導入することで、生徒自ら文法の意味を理解できるようにする。</li> <li>後置修飾を使用することで、単元末の活動で詳しい説明ができるという有用感を与えられるようにする。</li> <li>★単元のゴールで使用できそうな内容や表現等を、タブレットを使用し、マッピングさせる。</li> </ul>	
3		<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書本文のパート1の概要を理解し、リテリングの準備をする。</li> </ul>	ア	<ul style="list-style-type: none"> <li>ご当地キャラクターの説明を、新出文法を用いて行うことで、単元のゴールで使える表現を自ら増やせるようにする。</li> <li>グループでリテリング活動をしあうことで、様々な表現を学び合うことができ、生徒自身の発表に活かせるようにする。</li> </ul>	
4		<ul style="list-style-type: none"> <li>仮定法の用法を実際に会話や活動を通して理解する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>今までの仮定法との違いを示しながら、現実と異なる状況も英語で表現できることに気づかせ、表現力を高められるようにする。</li> </ul>	
5		<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書パート2について概要を理解し、リテリングの準備をする。</li> </ul>	ア	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の都市の一つである境港市についての本文を読み、キーワードから本文をまとめていく活動を設定することで、既習の表現を繰り返し使って定着を図ることができるようにする。</li> </ul>	
6		<ul style="list-style-type: none"> <li>仮定法の用法を実際に会話や活動を通して理解する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>「もし〜ならば」という場面を多く提示して、どのように表現するのかを即興で考えて相手に伝える会話活動を設定することで、本単元の文法事項について理解を深められるようにする。</li> </ul>	
7		<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書本文のパート3の概要を理解し、リテリングの準備をする。</li> </ul>	ア	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の特色ある食べ物についての本文を示すことで、言語活動で紹介する一つの魅力を知ることができるようにする。</li> <li>★タブレットで様々な地域の人気メニューを紹介し、実際に教科書本文を用いながら紹介させることで、本文の内容理解だけでなく、新出表現の理解を深められるようにする。</li> </ul>	
8		<ul style="list-style-type: none"> <li>都市を活性化する取組の文章を読み、都市独自の魅力の概要をつかむ。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>文章の概要が示されたイラストを用いて、各都市を紹介し合うことで、様々な内容や表現等を共有させ、自分の紹介に役立てるようにする。</li> </ul>	
9		<ul style="list-style-type: none"> <li>ALTの希望にあった都市を決定し、情報を調べ、紹介内容を考える。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>★おすすめの都市を紹介するために必要な情報を、書きためた各自のマッピングを活用しながら、見通しをもって取り組めるようにする。</li> </ul>	
10 本時		まとめる	<ul style="list-style-type: none"> <li>互いのマッピングを参考にしながら、プレゼン内容を整理し、発表する。</li> </ul>	イ ウ	<ul style="list-style-type: none"> <li>★今までの単元の言語活動を参考にしたり、ミライシードのオクリンクでグループを作り、互いのマッピングや内容などを共有したりしながら、自分のプレゼンに生かせる部分を見つけ、発表を改善できるようにする。</li> </ul>
11			<ul style="list-style-type: none"> <li>ALTに向けてプレゼンテーションを行う。</li> </ul>	ア イ ウ	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表を聞く生徒は、メモを取り、聞いて理由も書かせることで、主体的に聞く力を高められるようにする。</li> <li>発表者にはALTから質問してもらうことで、即興の会話での表現力を高められるようにする。</li> </ul>

12	・プレゼンテーションの振り返り、および単元の取組を振り返る。		・振り返りシートを用いて単元全体のわかったこと、深まったことを書かせることで、次の単元へ活かせるようにする。
後日	ペーパーテスト	ア イ ウ	

※ 評価において、印がない箇所は各単位時間において目標に向けて指導は行うが、記録に残す評価は行わない。

## II 本時の学習

### <ねらい>

ALTに日本の魅力について知ってもらうために、自分で作成したマッピングを活用しながら、日本の都市やその特色について、自分の考えや気持ちなどを話すことができる。

### <板書計画> 他のクラスの生徒の共有したマッピングを掲載予定

<p>(黒板) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">目付</span></p> <p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">めあて</span> 互いのマッピングを共有し、自分のプレゼン内容をよりよくしよう。</p> <p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">まとめ</span> おすすめする表現があると魅力が伝わる。 具体的な情報が多いとわかりやすい。</p>	<p>(TV モニター) オクリンク</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="padding: 5px;">生徒の画面</td> <td style="padding: 5px;">生徒の画面</td> <td style="padding: 5px;">生徒の画面</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">生徒の画面</td> <td style="padding: 5px;">生徒の画面</td> <td style="padding: 5px;">生徒の画面</td> </tr> </table> <p>(その他) 本時での活動の流れ、ポイントなどをスライド等で表示する。</p>	生徒の画面	生徒の画面	生徒の画面	生徒の画面	生徒の画面	生徒の画面
生徒の画面	生徒の画面	生徒の画面					
生徒の画面	生徒の画面	生徒の画面					

### <展開>

### ★1人1台端末の活用

学習活動	指導上の留意点
<p><b>1 あいさつ・ウォームアップをする。 (10分)</b></p> <p>① 英語であいさつをする。 ② Small Talk をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>Small Talk の内容 (例) 東京や京都など、好きな都市の魅力について</p> </div>	<p>○日常的に行なっているやりとりから始めさせることで、英語を使う雰囲気から授業が開始できるようにする。</p> <p>○単元のゴールとつながりのあるテーマについて、Small Talk を行い、新出表現や既習表現を繰り返し使用できる場を設定することで、言語材料の更なる定着や表現力の向上を図れるようにする。</p> <p>○ALTとやり取りを通して実際に英語を使用する場面を設定することで、目的意識を持って英語を使えるようにする。</p>
<p><b>2 本時のめあてをつかむ。 (10分)</b></p> <p>① 教師と本時のめあてについて確認する。</p> <p>② ALTの知りたい6つの条件についての詳しい情報を読む。</p> <p>1 自然 2 建物 3 食べ物 4 様々な施設 5 アニメ・ゲーム 6 観光地</p>	<p>○ALTへの紹介でどのような目的で紹介するのかを再確認させることで、単元末の言語活動へ取り組みやすくする。</p> <p>★タブレットでジャンル毎に追加のリクエストを送り、新たな視点を与えることで、本時で個人の発表内容を具体的で魅力的な者にする事ができる。</p>
<p><b>めあて</b> 互いのマッピングを共有し、自分のプレゼン内容をよりよくしよう。</p>	

<p>3 本時の活動に取り組む。(25分)</p> <p>① 同じ都市でグループになり、それぞれのマッピングをオクリンクで共有し、自分のものを改善する。(授業改善の視点にむけての活動)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>共有のポイント (中間評価のポイント)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・トピックに関連するもの (マッピングのつながり、広げ方など)</li> <li>・新出表現で使いそうなもの</li> <li>・説明をわかりやすくする表現 (既習の関係代名詞などを含む)</li> <li>・ALTの言葉の引用</li> <li>・スライドとの連動</li> <li>・相手への投げかけ</li> </ul> </div> <p>予想される生徒の反応</p> <p>S: あ、食べ物については食べられる店以外にも、値段もあれば、より詳しい説明ができそう。</p> <p>S: 最後におすすめする表現で終わりたいけれど、どうやって表現しているのかを意識しながら、他の人のマッピングを見てみよう。</p> <p>S: 教科書での表現の中に使える文があったから、さらに付け加えてみようかな。</p> <p>② 改善した内容をグループ内で発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>発表についてはマッピングを見て、スライドを使いながら発表するか、もしくはマッピングを見ながら紹介できるようにする。</p> </div> <p>③ それぞれの内容にフィードバックする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>フィードバックの内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表内容がわかりやすかったのか。</li> <li>・ALTが知りたい条件が入っているか。</li> <li>・自分とは違う表現が使われているのか。</li> </ul> </div>	<p>○同じ条件のグループで行い、お互いのマッピングを比較させることで、より伝わりやすい表現などを取り入れ、詳しい内容にすることができる。</p> <p>★オクリンクを用いて瞬時に生徒の考えを互いに共有できるようにすることで、言語活動の時間を確保できるようにする。</p> <p>★他の生徒の参考となった表現や内容等は、マッピングに反映させる際に、分かるように色を変えさせる。</p> <p>○ALTは共有の間に生徒へ積極的に質問をし、考えを引き出すようにすることで、英語でのやり取りをし、紹介する相手から直接アイデアをもらって内容改善ができるようにする。</p> <p>◎内容がほとんど完成している生徒には、同じグループの生徒の活動をサポートするよう指示し、より理解を深められるようにする。</p> <p>●都市についての内容が考えられない生徒には、マッピングや教科書本文、同じグループの内容を参考にするように声かけをすることで、発表することができるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【評価項目】(観察・ワークシートへの記入)        &lt;思考・判断・表現&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ALTに日本の魅力について知ってもらうために、簡単な語句や表現を用いて、まとまりのあるプレゼンテーションで伝えている。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【評価項目】(観察・ワークシートへの記入)        &lt;主体的に学習に取り組む態度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ALTに日本の魅力について知ってもらうために、簡単な語句や表現を用いて、まとまりのあるプレゼンテーションで伝えようとしている。</li> </ul> </div> <p>○グループ内でフィードバックする機会を設けることで、生徒が自己有用感を感じ、他の生徒は参考になる表現を聞くことができるようにする。</p>
<p>4 本時の振り返りをする。(5分)</p> <p>① 本時の振り返りを振り返りシートに書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>&lt;振り返りの記述例&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達のマッピングを見て、○○といったキーワードをマッピングに加えることができ、内容がより豊かになった。</li> <li>・次回、ホゼー先生が喜んでもらえるような発表になるよう、伝える順番も考えて話していきたい。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>&lt;まとめ&gt; (本時の中では教師からの確認、振り返りシートでの記述によって行う。)</p> <p>紹介をわかりやすくするためには、具体的な情報やおすすめする表現などがあるとよい。伝える内容の順番なども意識して発表できるとよい。</p> </div>	<p>○振り返りを記入させ、疑問点や、できるようになったことを書かせて残しておくことによって、次回への課題や、目的意識を高められるようにする。</p>
<p>生徒の最終的な評価 (内容面)</p> <p>A Bに加えて、論理的な発表で日本の都市を効果的に説明し、おすすめしている。</p> <p>B ALTが知りたい6つのジャンルの中の一つについて日本の都市を紹介している。</p> <p>C Bを満たしていない。</p>	<p>※なお、発表時に新出表現を用いて発表していない場合でも、単元の目標を達成する発表であった場合、評価Bを満たすとみなす。</p>